



みのかも文化の森・市民ミュージアムは、開館 20 年目を迎えて、館としての今後の方針を踏まえ、常設展示室をより存在感のあるものにするために、展示の改善を行いました。全面的に展示品を入れ替えたり、大型のジオラマを変えたりするなど、いわゆる「リニューアル」という形ではありません。

ここで改めて原点に立ち返り、展示されているリアルな資料・標本・記録に来場者がじっくり向き合い、それらが語ることを感じたり考えたりする場にしたいと考えます。多面的な観点を提示しながら来場者にとっての、新たな「気づき」と「築き」が起きる展示室をめざします。

美濃加茂市内には歴史や文化を物語る数多くの文化財や地域資源が残されています。そして市民ミュージアムには、様々な分野の膨大な資料が収蔵されています。展示・紹介される資料は、そのほんの一部ですが、より身近なこととして伝わるよう工夫し、来場者がこの地のよさや奥深さを考え、まちの再認識や誇りにつながっていく展示室をめざします。

留意点は次の 3 点です。

①モノから、さらなる好奇心へ繋げる

展示資料は様々な情報を持っています。それらを知識として「教える」のではなく、その人なりに感じたり、気づいたりしてもらえるような自由な学びの場となるよう工夫をします。「きっかけ」と「ふかまり」そして「ゆらぎ」の空間です。

②モノから、人の思いへ繋げる

展示資料には、必ず人が何らかの形で関わっています。資料から、それを見つけ出した人、作った人、使っていたひと、考え関わった人などを感じさせる、その状況に思いを馳せるような展示を考えます。

③モノから、現地やフィールドに繋げる

展示資料は、最初から展示室にあったわけではありません。もともとは、ある場所にあったものやその場所で起きたことを、ここに移動し展示しているに過ぎないのです。実際に森の中や現地を訪れ、その空間とともに事柄を感じてもらえる、いざないの場となるよう試みます。

ようこそ「常設展示室」へ

「常設展示室」って、なんか難しそうな名前ですが、ここはこの地域の良さや奥深さをみなさんと共有する場です。気持ちを楽しんで室内を自由に巡ってください。ならべてあるもののほとんどが本物・実物です。存在感のあるリアルな展示品から「何か」をそれぞれで感じていただきたいと思います。パーチャルなものからは得られない世界をお楽しみください。展示品のそばには関連する説明文などが添えてありますが、それらは何かを覚えてもらうために置いてあるわけではありません。みなさんの興味関心を深めてもらうためのちょっとしたお手伝いしか過ぎません。まずは、展示をじっくりと見ていただき、何か一つでも「なぜかな」「この次の展開は？」とか「これを作った人はどんな人だろう」などと、好奇心をふくらませ、展示品の「向こうの世界」に思いを巡らせてもらえたらうれしく思います。さらに、展示をご覧になったあとに「今度こうしてみよう」「現地を訪れてみたい」などと、みなさんの日々の暮らしの発想やこの地に住む楽しさに繋げていただければ最高です。次へのスタートの展示室です。

展示室はコミュニケーションの場でもあります。つぶやいてください。大声でなければ、会話をしてもらっても構いません。また、お聞きになりたいことがあれば、総合案内をとおして遠慮なく学芸員に声をかけてください。

また、「常設」といっても、展示品などの内容は機会のあるごとに変化、充実させていく予定です。

この展示室が、みなさんの心に響き、記憶に残る場となることを心から願っています。

常設展示室 20 年目の「模様替え」にあたり

2020 年 10 月 美濃加茂市民ミュージアム